

令和5（2023）年度

科目別学習の手引き (シラバス)

2 学 年

長野県松本美須々ヶ丘高等学校

令和5（2023）年度 科目別学習の手引き 2学年

1. はじめに

この冊子は、本校の各科目の学習内容を説明することによって、生徒自身が年間の学習計画をたて、将来の目標実現や進路学習に役立ててもらおう、という願いを込めて作成しました。各科目の学習方法なども記載されていますので、自らの学習内容を事前に知り、学習に役立ててください。

2. 学習について

学習はなぜするのでしょうか。「こんな事をやっても将来使わない」という高校生の声をよく耳にします。しかし、それは違います。学習は見識を深め、思考力を高め、より人間らしく、論理的、主体的に社会で生きていくためにするのです。1年の時に理解できなかった数学の問題が、3年になるとすぐ理解できてしまうことがあります。それは、知らず知らずのうちに論理的思考力が備わり、学習者としての力が伸びてきているからです。確かに学習内容が直接社会で使われることは少ないかもしれませんが、目指すところがそれだけでないのは、皆さんにもわかりでしょう。

また高校卒業後の進路を考えたとき、就職であろうと大学進学であろうと受験には「学力」が必要です。皆さんは将来の夢を模索しながら、惜しみなく努力すべき時期にあります。自身の夢は、自分自身でしか掴むことができませんし、高校生活はそのためにあるといっても過言ではありません。1年次の学習は理解できていますでしょうか。大学入試の出題範囲の約70～80%は、1、2年次の学習範囲であることも押さえておかなくてはなりません。

中だるみになりがちな2年次ですが、学ぶ姿勢を持ち続けてください。進路についての意識を高めるとともに、その道をひらくためにも、この年次の学習の充実が欠かせません。クラブ活動や生徒会活動でも中核となっていく2年目、切磋琢磨してしっかり勉強する仲間として成長していきましょう。

3. 単位認定について

- 1) 授業の遅刻と早退は2回で1回の欠課にカウントされます。
- 2) 単位不認定の科目があると、進級・卒業はできず、原級留置となります。
- 3) 定期テストを受験し、各教科の基準点を満たさないと、原則として単位は認定されません。詳細については、各教科担任に聞いてください。

4. 定期テストについて

- 1) 定期テストの追試は正当な理由がある場合を除き、原則として行いません。正当な理由がある場合は、必ず担任に申し出て指示を仰いでください。
- 2) 定期テスト1週間前からは、クラブ活動禁止期間です。下校時刻までに必ず下校し、学習に専念してください。重要な大会の直前などの場合は、顧問を通じて職員会の指示に従ってください。

5. その他

- 1) 遅刻、欠席する場合は、必ず学校に連絡してください。
- 2) 以上のことは、保護者の方にも必ず確認しておいていただってください。

教 科	国語				
学 年	2 学年	科 目	論理国語	単位数	2
担当者	2 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】評論を読むことに必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、論理的、批判的な思考力と判断力、レポートや小論文の書き方を学び実践的な表現力をを身につける。 ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な内容の文章に触れることで著者の主張を理解し、正確に文意を理解しようとする意識を培う。				
教 材	教科書『高等学校 精選 古典探求』（第一学習社）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	評論文の理解に必要な語句や知識を身につけ、正確に文章の理解ができる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、他人の考えを認識することで自己の思考を深化させることができる。	言葉を媒介として積極的に現代社会を理解しようと努め、常に自己の向上を図ることができる。		
主な評価方法	・ペーパーテスト（事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）	・ペーパーテスト ・ポートフォリオ ・レポート ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「自他の『間合い』」（鷺田清一） 「日本人の『自然』」（木村敏）		中間考査	10 時間	
	「手の変幻」（清岡卓行） 「働かないアリに意義がある」（長谷川英祐）		期末考査	10 時間	
2 学期	「帰納法のワナ―一般化に対する疑問」（谷岡一郎） 「A I 時代の社会と法」（小塚荘一郎） 「法に関わる文章を読み比べる」		中間考査	15 時間	
	「なぜ多様性が必要か」（福岡伸一） 「生体認証技術の発展と未来」（高野麻子）		期末考査	15 時間	
3 学期	「コミュニティ空間としての都市」（広井良典） 「『第二の身体』としてのメディアと技術」（若林幹夫）		学年末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では主に正確な読みを通して評論文の読解を学び、現代の諸相に触れることで豊かな感性と理性を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動の狙いや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等確認しておくようにしてください。不明な箇所は授業内で解決し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○授業内で、語句の意味や漢字の小テストを行います。すぐに語彙が増えるものではありませんので、都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

教 科	国語				
学 年	2 学年	科 目	古典探求（文系）	単位数	3
担当者	2 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】古典を読むことに必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、論理的に考える力や判断力、豊かな想像力を伸張させる。また、昔の人々の思想に触れ、自身の思いや考えを深め、それを適切に表現することができる。 ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な種類の文章に触れることで文化としての日本語の豊かさを理解し、自らが言語文化の担い手であるという自覚を養う。				
教 材	教科書『高等学校 精選 古典探求』（第一学習社）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	古典や韻文の理解に必要な語句や文法の知識を身につけ往事の社会を知り古典作品を理解できる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、古人の考えを認識することで自己の思考を深化させること	言葉を媒介として積極的に古人やその生きた社会を理解しようと努め、常に自己の向上を図ることができる。		
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・ポートフォリオ ・レポート ・グループでの話し合い	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「小式部内侍が…」（古今著聞集） 「よろづのこと…」（徒然草） 「呉越同舟」（孫子）「鶏鳴狗盗」（十八史略）		中間考査	15 時間	
	「初冠」（伊勢物語）「姨捨」（大和物語） 「雑説」（韓愈）		期末考査	15 時間	
2 学期	「すさまじきもの」「野分の…」（枕草子） 「弓争ひ」「道長の豪胆」（大鏡） 「酒虫」（聊斎志異）		中間考査	24 時間	
	「光君の誕生」「若紫」（源氏物語） 「鴻門之会」「四面楚歌」（史記）		期末考査	23 時間	
3 学期	「忠度の都落ち」「能登殿の最期（平家物語） 「源氏の五十余巻」（更級日記） 「古今和歌集」 孟子 老子 韓非子		学年末考査	28 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では、現代の日本語の基になった内外の古典を学ぶことで豊かな感性と理性を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動の狙いや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等確認しておくようにしてください。不明な箇所は授業内で解決し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○授業内で、文法テストや古語テストを行います。すぐに語彙が増えるものではありませんので、都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

教 科	国語				
学 年	2 学年	科 目	古典探求（理系）	単位数	2
担当者	2 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】古典を読むことに必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、論理的に考える力や判断力、豊かな想像力を伸張させる。また、昔の人々の思想に触れ、自身の思いや考えを深め、それを適切に表現することができる。 ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な種類の文章に触れることで文化としての日本語の豊かさを理解し、自らが言語文化の担い手であるという自覚を養う。				
教 材	教科書『高等学校 精選 古典探求』（第一学習社）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	古典や韻文の理解に必要な語句や文法の知識を身につけ往事の社会を知り古典作品を理解できる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、古人の考えを認識することで自己の思考を深化させること	言葉を媒介として積極的に古人やその生きた社会を理解しようと努め、常に自己の向上を図ることができる。		
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・ポートフォリオ ・レポート ・グループでの話し合い	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「小式部内侍が…」（古今著聞集） 「よろづのこと…」（徒然草） 「呉越同舟」（孫子）		中間考査	10 時間	
	「姨捨」（大和物語） 「雑説」（韓愈）		期末考査	10 時間	
2 学期	「すさまじきもの」（枕草子） 「弓争ひ」（大鏡） 「酒虫」（聊斎志異）		中間考査	16 時間	
	「光君の誕生」「若紫」（源氏物語） 「鴻門之会」（史記）		期末考査	15 時間	
3 学期	「忠度の都落ち」（平家物語） 「源氏の五十余巻」（更級日記） 「古今和歌集」 孟子 老子 韓非子		学年末考査	19 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では、現代の日本語の基になった内外の古典を学ぶことで豊かな感性と理性を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動の狙いや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等確認しておくようにしてください。不明な箇所は授業内で解決し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○授業内で、文法テストや古語テストを行います。すぐに語彙が増えるものではありませんので、都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

令和 5 年度 地歴公民科 シラバス

科 目	地理探究	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2年
使用教科書	「新詳 地理探究」（帝国）				
補助教材等	「新編地理資料」（とうほう） 「ニューコンパスノート地理2023」（とうほう）				

1 学習の到達目標

自然環境（地形、気候）や環境・人種・民族・宗教・人口・国際問題など、現代世界のさまざまな状況について知り、解決すべき課題への理解を深める。さまざまな地図の読図を通して、地域の特徴と変化、課題を読み取る。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 1 教材や新聞などを活用し、現代世界の状況や課題を考えながら各分野の学習を深める。学習内容は資料集やプリントなどを活用してノートに整理し、単元ごとに問題集で確認する。
- 2 定期考査のほか、課題レポートなどを実施する場合もある。
- 3 授業プリントや定期考査などはファイルに整理・保存すること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界や日本各地の地域の特色、課題を理解し、基本的な地名を身につけている。	自分の考えをまとめ、表現・発表することができる。また他者の発表をもとに、自分の考えをさらに深めることができる。	自らの興味関心に基づいて積極的に発言したり、資料やデータを探索・活用してより深く追究したりすることができる。
主な評価方法	・定期テスト・提出物 ・発言・取組みの様子 ・出欠遅刻状況	・定期テスト ・課題やレポートなどの提出 ・個人及びグループでの発表 ・発言・取組みの様子	・定期テスト・提出物 ・発言・取組みの様子 ・出欠遅刻状況 ・活動の取り組み、振り返り

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	自然環境	・地球環境と人間 ・地形	15	・環境としての地球と人間との関係を考察する。 ・地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているのか考える。	・地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。(a)
6		・気候	15	・気候の違いは、どのような要因で生まれるのか。また、人々の生活にどのような影響を与えているのか考え理解する。	・気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているのかについて理解し、表現しようとしている。(a)(b)
8		・日本の自然環境		・日本の自然環境の特徴を自然災害との関係を通して考察する。	・日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられ

9		b・地球環境問題	18	・地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすべきなのか考える。	・課題を主体的に追究しようとしている。(c) ・さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方でどのような取り組みをするべきか理解している。(a)
10 11	資源と産業	・農林水産業 - 食料問題	18	・農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるのか理解する。 ・食料の分配は、世界全体をみると著しい偏りがある。飽食や飢餓がみられるのは、それぞれどのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか考える。	・農林水産業の分布や発達の傾向や規則性について理解している。(a) ・食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。(c)
12 1		・エネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題	15	・偏在するエネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのか考え理解する。 ・資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのか考察する。	・世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか理解し、それを表現しようとしている。(b) ・資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。(c)
2 3		・工業 ・第3次産業	15	・世界の工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのか考え、理解する。 ・現代の主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているのか理解する。	・工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を理解し、主体的に追究しようとしている。(a)(c) ・第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。(c)

令和 5 年度 地歴公民 科 シラバス

科 目	日本史探究	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
補助教材等	『図説日本史通覧』（帝国書院）『日本史重要史料集』（浜島書店）『4 ステージ演習ノート日本史 B』（数研出版）				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を身に付けることを目標とする。歴史的な基本的知識を習得し、課題を追究する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる、平和で民主的な社会の、主体的形成者として必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○日本史は中学校でも学習したと思いますが、高校での日本史は史料などを用いながら、より深く学び、日本史の面白さを体験していきます。

○3年時に継続して履修し、大学入試共通テストや大学入試で選択する人にも対応します。自らも積極的に学習することが必要です。

○単なる暗記ではなく、自ら考え、理解していく姿勢を求めます。

○

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	歴史の諸事象について正確な基本的知識を身に付け、諸資料の情報から歴史的な考察ができる。	歴史事象の特色・展開・背景などについて、相互の関連・比較・現在とのつながりなどに着目し考察したり、説明したりできる。	歴史事象に対する興味関心を深め、自主的主体的に日本史の学習を深化・発展させることができる。
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 発表など	・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 授業態度 ・ 発表など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 月	第1章、日 本文化のあ げぼの 第2章、古 墳とヤマト 政権	上述の教科書 と副教材	15	① 日本列島における旧石器文化・ 縄文文化の時代と社会 ② 弥生文化と小国の形成過程 ③ 古墳時代の展開とヤマト政権に よる国家の形成過程 ④ ヤマト政権の権力闘争、古代文 化の摂取に着目して飛鳥時代 を考察	例、a.考古学的資料と中国の文献史 料の記述の両方を正しく理解し、b. それらの情報を踏まえて総合的に、 小国の形成過程を考察。 c.半島との関係などに着目して古代 の対外関係の実態や、古墳文化の 広がりを明らかにしようとしている。
6 7 月	第3章、律 令国家の形 成 第4章、貴 族政治の展 開	上述の教科書 と副教材	15	① 律令国家が成立するまでの政 治過程と律令の支配体制 ② 平城京における政治動向と国 家仏教、土地政策 ③ 平安前期の律令体制の変質 ④ 摂関政治の成立過程と特質、 国風文化 ⑤ 律令にもとづく地方統治の乱 れ、地方の反乱と武士の成長 過程	例、a.藤原北家の権力掌握過程を理 解する。b.奈良時代の政治や平安初 期の政治改革とも比較しながら、摂 関政治の特質を考察し、c.東アジア 情勢の変化が日本社会に与えた影 響、平安時代の政治の在り方と文化 の関係など掘り下げて学習する。
8 9 月	第5章、院 政と武士の 躍進 第6章、武 家政権の成 立	上述の教科書 と副教材	23	① 院政期の政治・経済・社会・文 化 ② 平氏政権の特性 ③ 鎌倉幕府の成立過程と全国的 な武家政権化・執権政治の確立 ④ 蒙古襲来への対応・影響と幕府 の衰退	例、a.平氏政権の台頭とその背景、 権力基盤などについて理解してい る。b.武家政権の権力基盤となる武 士の土地支配の意味を正しく考察、 表現する。c.古代との比較を通して、 中世では政治権力が複数同時存在 していたことなど、中世の時代的特 色を探究しようとしている。
10 11 12 月	第7章、武 家社会の成 長	上述の教科書 と副教材	22	① 南北朝の動乱から室町幕府の 成長と安定 ② 東アジアとの交流・交易が中世 日本にもたらした影響 ③ 武士・庶民・地方の成長と諸産 業の発達、中世社会の多様な 展開 ④ 幕府の動揺と下剋上の風潮	例、a.室町時代の政治過程・幕府の 権力基盤・守護などについて理解し ている。b.史料から、守護・国人・土 民などの動きと相互の関係を読み 取り、中世社会の活気ある多様な展 開について考察する。c.室町時代 の社会文化の特徴を、鎌倉時代や 近世と比較して、掘り下げて理解し ようとしている。
1 2 月	第8章、近 世の幕開け	上述の教科書 と副教材	30	① 織豊政権、統一事業とその特質 ② 桃山文化、時代背景とその特徴	例、a.織豊政権の統一過程、諸政策 を理解している。b.史料から様々の 統一政策の目的・意味を正しく読み 取り、考察し、記述できる。c.興味を 持って天下人三人を比較したり、中 世から近世への国家の変容につい て考えることができる。

科 目	世界史探求	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	詳説世界史				
補助教材等	アカデミア世界史				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 世界史に興味を持てるように資料集を使い、資料集にもない写真などを提示していきます。
- 農耕民と遊牧民の対立と交流の歴史を両方の視点から見て、資料を読み取り多角的、多面的にみられるようにする。
- 歴史の流れを大まかにつかみ、歴史事象の原因とその影響をしっかりと考察できるようにする。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	・定期考査と単元ごとの小テストで評価する	・定期考査とレポート課題で歴史事象を多面的多角的に考察できたかを評価する。	・提出課題と授業中の発問で評価を行う

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	文明の成立と古代文明の特質	オリエント文明	10	オリエントの風土と、その文明の歴史的 特質の関係を多面的・多角的に考察し 表現する。 メソポタミア・エジプト文明が今日に残 した文化的遺産を理解し、両文明の違い を多面的・多角的に考察し表現する。	オリエントの大半が乾燥地帯であるこ と、大河流域のメソポタミアとエジプトで 灌漑農業をもとにいち早く文明化したこ とを理解している。(a) ハンムラビ法典や『旧約聖書』など、当 時の社会の特徴や世界の歴史に与えた 影響を多面的・多角的に考察し表現して いる。(b)

5 6	中央ユーラシアと東アジア世界	中国の古代文明 秦漢帝国 東アジア文化圏の形成	20	新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。 唐の勢力圏の広がりを理解する。 唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。	秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。(c) 隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。(a)
7 8	南アジア世界 地中海周辺国家の形成	インド古代王朝 ギリシアのポリス国家	14	仏教について理解する。 「海の道」の交易を多面的・多角的に考察し表現する。 ポリスの特徴と民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ギリシア文明が近代ヨーロッパに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	インド洋航海図(地図)や『エリュトラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。(b) アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。(a)
9 10	地中海周辺国家の形成 イスラーム教の成立と伝播	ローマ帝国の盛衰 イスラーム教の諸地域への伝播とその文化	22	ローマ帝国の成立と発展その衰退を多面的多角的に考察する。 ローマ帝国の文化的意義とヨーロッパ世界への影響を考える。 イスラーム教の成立とその発展を考える。イスラーム教が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。(b) イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。(a)
11 12	ヨーロッパ世界の変容と展開 東アジア世界とモンゴル帝国	西ヨーロッパ封建社会とその展開 モンゴルの大帝国	15	中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。	中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。(a) モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。(c)
1 2	アジアの諸帝国の繁栄	明清帝国と周辺地域 オスマン帝国の興隆 ムガル帝国の成立	15	清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ムガル帝国の支配がインド社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。(b) オスマン帝国の統治方法の特殊性を理解する。(a) ムガル帝国が現在の南アジアの民族問題に影響を与えていることに気づく。(c)

令和 5 年度 公 民 科 シラバス

科 目	公共	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2 学年・全クラス
使用教科書	「詳述 公共」(実教出版)				
補助教材等	「最新図説 公共」(浜島出版)「4 ステージ演習ノート」(数研出版)				

1 学習の到達目標

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考・判断・表現)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 中学校での公民の発展的内容になります。まず、より正確で詳細な知識を求められます。問題集を有効活用して知識を深めましょう。
- 現代の社会情勢、社会問題に直結する内容を扱います。新聞、ニュースなどで情報を集め、世の中について考えられるようにしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。
主な評価方法	・ペーパーテスト(知識及び理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト(思考・判断・表現を問う問題)の結果 ・レポートの記述	・グループでの話し合い活動の態度。発言内容。 ・生徒自身による自己評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	民主国家における基本原理		15	・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・基本的人権の歴史的発展について理解する。 ・民主政治の意義と課題について理解する。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。	・民主国家における基本原理について理解している。(a) ・公共的な空間における基本原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。(b)
6 7 8	日本国憲法の基本的性格		20	・二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・憲法の最高法規性について理解する。 ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 ・日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。 ・人権に関する現実社会の課題について理解する。 ・新しい人権について理解する。 ・公共の福祉について理解する。	・日本国憲法の基本的性格について理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
9 10 11	日本の政治機構と政治参加		20	・国会と内閣の構成について理解する。 ・官主導社会とその課題について理解する。 ・司法権の独立や裁判について理解する。 ・裁判員制度や検察審査会について理解する。 ・地方自治の本旨について理解する。 ・戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 ・各選挙制度の特徴と課題について理解する。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ・マス・メディアや SNS の役割と政治にもたらす影響について理解する。 ・政治参加の課題について理解する。	・日本の政治機構と政治参加について理解している。(a) ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
12	国際政治の		15	・国内政治や国内法との比較で考え	・国際政治の動向と課題について理

1 2	動向と課題			る。 ・領土問題が生じる背景と望ましい解決方法について考える。 ・主要機関や専門機関の働きから考える。 ・とくに安保理改革を材料に考える。 ・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。 ・大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。	解している。(a) ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 (b) ・よりよい社会の実現を視野に国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
--------	-------	--	--	---	---

教科	数学				
学年	2	科目	数学Ⅱ	単位数	4
担当者	服部				
教材	教科書：高等学校 数学Ⅱ（数研出版） 問題集：チャート式解法と演習 数学Ⅱ基本例題完成ノート 参考書：チャート式解法と演習数学Ⅱ+B（数研出版）				
目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	知識・技能 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	思考力・判断力・表現力 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価方法	・定期考査 ・単元テスト	・定期考査 ・単元テスト ・提出ノートの内容	・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ・単元テスト		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	式と証明	式と計算	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 研究 $(a+b+c)^n$ の展開式 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 研究 代入による恒等式の係数決定	23 時間	
		等式・不等式の証明	6. 等式の証明 7. 不等式の証明		
	複素数と方程式	複素数と2次方程式の解	1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係・コラム 4. 剰余の定理と因数定理	1 学期中間考査	
		高次方程式	研究 複素除法 5. 高次方程式 発展 3次方程式の解と係数の関係		
2 学期	図形と方程式	点と直線	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 研究 2つの円の交点を通る図形	14 時間	1 学期期末考査
		円	8. 軌跡と領域 9. 不等式の表す領域 研究 放物線を境界線とする領域		
	三角関数	三角関数	1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 6. 加法定理 研究 加法定理と点の回転 7. 加法定理の応用 発展 和と積の公式 コラム 身の回りに現れる正弦曲線	26 時間	2 学期中間考査
		加法定理	8. 正弦定理 9. 余弦定理 10. 面積公式 11. 三角関数の応用		
3 学期	指数関数と対数関数	指数関数	1. 指数の拡張 研究 角の度数のn乗根 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	36 時間	2 学期期末考査
		対数関数	6. 微分係数 7. 導関数とその計算 研究 関数 $y=f(x)$ の導関数 3. 極値の方程式 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積 研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 研究 放物線とx軸で囲まれた部分の面積		
	微分法と積分法	微分係数と導関数	9. 関数の増減と極大・極小 10. 関数の増減・グラフの応用 11. 不定積分 12. 定積分 13. 定積分と面積 研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 研究 放物線とx軸で囲まれた部分の面積	36 時間	3 学期期末考査
		関数の値の変化	14. 関数の増減と極大・極小 15. 関数の増減・グラフの応用 16. 不定積分 17. 定積分 18. 定積分と面積 研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 研究 放物線とx軸で囲まれた部分の面積		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。					
② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。					
③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習についての「復習」は不可欠。					
④ 演習の時間を確保するために授業の進度等が変更になる場合がある。					
⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。					
⑥ 単元テストを定期的に実施する。					

教科	数学				
学年	2	科目	数学B	単位数	2
担当者	服部				
教材	教科書：高等学校 数学Ⅱ（数研出版） 問題集：チャート式解法と演習 数学B 基本例題完成ノート 参考書：チャート式解法と演習数学Ⅱ+B（数研出版）				
目標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 思考力・判断力・表現力主体的に学習に取り組む態度				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価方法	・定期考査 ・単元テスト	・定期考査 ・提出レポートの内容 ・問題演習 ・提出ノートの内容	・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	数列	等差数列と等比数列	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 研究 複利計算 コラム フィボナッチ数列	27 時間	
		いろいろな数列	6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	1 学期期末考査	
2 学期	統計的な推測	漸化式と数学的帰納法	9 漸化式 研究 $a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列 研究 図形と漸化式 コラム 漸化式 発展 隣接3項間の漸化式 10 数学的帰納法 研究 自然数に関する命題のいろいろな証明	30 時間	
		確率分布	1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 コラム 確率変数の積の分散 4 二項分布 コラム 二項分布のグラフ 5 正規分布 研究 連続型確率変数の期待値、分散、標準偏差 コラム 偏差値	2 学期期末考査	
3 学期	統計的な推測	6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定 9 仮説検定 コラム 標本の抽出方法	13 時間 3 学期期末考査		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。					
② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。					
③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習においての「復習」は不可欠。					
④ 演習の時間を確保するために授業の進度等が変更になる場合がある。					
⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。					
⑥ 単元テストを定期的の実施する。					

教 科	理科				
学 年	2 学年	科 目	物理基礎	単位数	2
担当者	2 学年担当 理科教諭				
達成目標	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
教 材	教科書：高等学校 物理基礎（第一学習社） 問題集：リードLightノート物理基礎（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	物理や物理現象について、基本的な用語をはじめ、知識の習得と理論的な反応の理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に着けようとしている。	習得した「知識・技能」を活用して、物理の実験観察や理論から複合的に思考し、問題解決や事象の判断による正確な文章あるいは口頭説明による表現力を培おうとしている。		実験観察への積極的な取り組みや考察、疑問点の洗い出しなどの他に多くの問題に積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。	
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート		考查、問題演習課題、実験レポート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	物体の運動		中間考查	10 時間	
	力と運動の法則		期末考查	10 時間	
2 学期	仕事と力学的エネルギー		中間考查	15 時間	
	熱/波の性質		期末考查	15 時間	
3 学期	音波/電気		期末考查	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
*「物理」未選択者の講座 物理の内容や現象において言葉の意味を理解するとともに、物理現象をイメージし作図できるようになることが望ましい。そのためにも、身の回りの現象に「なぜ？」という問いを見つ け、それについて考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識・技能の定着 に努めて欲しい。また実験・実習には、疑問をもって積極的に参加して欲しい。					

教 科	理科				
学 年	2学年	科 目	物理基礎	単位数	2
担当者	正木				
達成目標	自然界における物理現象が基本的な原理・法則に基づいていることを学習する				
教 材	教科書：改訂 高等学校 物理基礎（第一学習社） 問題集：リードLightノート物理基礎（数研出版）， 四訂版 リードα物理基礎＋物理（数研出版） その他：授業で配布するプリント				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	物理や物理現象について、基本的な用語や知識を習得・理解して、実験操作の基本的な技術を習得しようとする。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現しようとしている。		実験観察への積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。	
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート		考查、問題演習課題、実験レポート	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	物体の運動・力のつりあい		中間考查	20 時間	
	運動の法則・力学的エネルギー保存則		期末考查	20 時間	
2 学期	熱・波動・電気		中間考查	30 時間	
			期末考查	時間	
3 学期			期末考查	時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
物理基礎では、キーワードをよく理解し、それを使って物理現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。また実験・実習には、疑問をもって積極的に参加して欲しい。					

教 科	理科				
学 年	2学年	科 目	物理	単位数	2
担当者	正木				
達成目標	自然界における物理現象を記述する法則が数学的に表されることを学習する。				
教 材	教科書：改訂 高等学校 物理（第一学習社） 問題集：四訂版 リードα物理基礎＋物理（数研出版） その他：授業で配布するプリント				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	物理基礎で身につけた基本的な用語や知識をもとに、物理現象を数学的に理解しようとしている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現しようとしている。	実験観察への積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。		
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート	考查、問題演習課題、実験レポート		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期			中間考查	時間	
			期末考查	時間	
2 学期			中間考查	時間	
	剛体の運動		期末考查	30 時間	
3 学期	運動量の保存・等速円運動・慣性力・単振動・万有引力の法則		期末考查	40 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
物理では、物理現象を数学的に理解していくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着や計算力の向上に努めて欲しい。また実験・実習には、疑問をもって積極的に参加して欲しい。					

教 科	理科				
学 年	2 学年	科 目	化学	単位数	2
担当者	2 学年担当 理科教諭				
達成目標	物質やその変化に関する、体系化された理論や構造・性質などを学ぶ。				
教 材	教科書；化学（実教出版） 問題集；セミナー化学＋化学基礎（第一学習社）フォローアップドリル化学 2 冊（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	物質の状態変化・溶液・化学反応と熱エネルギー・電池と電気分解・化学平衡の考え方、構造、性質について、基本的な用語をはじめ、知識の習得と理論的な反応の理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に付けようとしている。	化学の実験観察や理論から複合的に思考し、問題解決や事象の判断による正確な文章あるいは口頭説明による表現力を培おうとしている。	実験観察への積極的な取り組みや考察、疑問点の洗い出しなどの他に多くの問題に積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。		
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート	考查、問題演習課題、実験レポート		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	電池と電気分解/状態変化		中間考查	10 時間	
	固体の構造/気体の性質		期末考查	10 時間	
2 学期	気体の性質/溶液		中間考查	15 時間	
	溶液/化学反応と熱・光エネルギー		期末考查	15 時間	
3 学期	反応の速さとしくみ		期末考查	10 時間	
	化学平衡			10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
理論化学分野の学習を行う。多くは1年次の化学基礎の学習内容を踏まえたものであるため、各自で化学基礎の内容の復習を行っておくこと望ましい。必ず専用のノート、ファイルを作り、解説と演習の区別をする。					

教 科	理科				
学 年	2 学年	科 目	化学	単位数	2
担当者	2 学年担当 理科教諭				
達成目標	物質やその変化に関する、体系化された理論や構造・性質などを学ぶ。				
教 材	教科書；化学（実教出版） 問題集；セミナー化学＋化学基礎（第一学習社）フォローアップドリル化学2冊（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	物質の状態変化・溶液・化学反応と熱エネルギー・電池と電気分解・化学平衡の考え方、構造、性質について、基本的な用語をはじめ、知識の習得と理論的な反応の理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に付けようとしている。	化学の実験観察や理論から複合的に思考し、問題解決や事象の判断による正確な文章あるいは口頭説明による表現力を培おうとしている。	実験観察への積極的な取り組みや考察、疑問点の洗い出しなどの他に多くの問題に積極的に取り組むことで理解を深めようとしている。		
主な評価方法	考查、実験レポート、問題演習課題	考查、実験レポート	考查、問題演習課題、実験レポート		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	電池と電気分解/状態変化		中間考查	10 時間	
	固体の構造/気体の性質		期末考查	10 時間	
2 学期	気体の性質/溶液		中間考查	15 時間	
	溶液/化学反応と熱・光エネルギー		期末考查	15 時間	
3 学期	反応の速さとしくみ		期末考查	10 時間	
	化学平衡			10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
理論化学分野の学習を行う。多くは1年次の化学基礎の学習内容を踏まえたものであるので、各自で化学基礎の内容の復習を行っておくこと望ましい。必ず専用のノート、ファイルを作り、解説と演習の区別をする。					

教 科	理科				
学 年	2 学年	科 目	地学基礎	単位数	2
担当者	2 学年担当 理科教諭				
達成目標	地球と宇宙のしくみを理解し、科学的な考え方を身につけ、豊かな教養を養うことを目標とする。				
教 材	教科書：地学基礎（啓林館）、資料集：二訂版ニューステージ地学図表（浜島書店）、問題集：SENSOR地学基礎（啓林館）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な用語、概念や原理、法則を理解している。観察実習の基本操作と科学的に探究する技能を身につけようとしている。	地学や天文に関わる現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しようとしている。	種々の地学および天文現象に関心を持ち、意欲的に探究しようとする積極的に取り組もうとしている。		
主な評価方法	・ 考査 ・ 観察レポート	・ 考査 ・ 課題	・ 提出物 ・ 課題		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	地球の概観、プレートテクトニクス		中間考査	10 時間	
	火山と火成岩・堆積岩		期末考査	10 時間	
2 学期	大気の大気構造、エネルギー収支と海洋 日本の天気		中間考査	12 時間	
	太陽系と宇宙		期末考査	12 時間	
3 学期	地層区分と地史・古生物 自然と共生		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
地学を学ぶためには、先ず基礎知識が必要になる。用語の意味をよく理解し、それを使って地学現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。					

令和 5 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ① 様々な運動を経験し、各種目に対する技術及び理論を習得する。また、健康の増進と体力の向上を図る。【知識及び技能】
- ② 運動の楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。
【知識及び技能】
- ③ 他者と関わりながら体を動かすことに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ④ 主体的に参加・運営することで積極的に運動に関わる態度を学ぶ。
【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 運動に積極的に取り組むこと
- 他者との関わりを大切にし、お互いでアドバイスをするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
- 安全に配慮して活動に取り組むこと（装飾品等を身につけない）
- 実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
- 授業の服装については学校指定のジャージ、シューズの着用を原則とする
- 水泳については補充をおこなう
- 体育理論は教室での座学とし、知識理解度を評価するためのプリント提出を課す

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・各種目のルールを理解し、運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・自分及び仲間の安全に留意し実践できるか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を理解し、知識を身につけることができたか。 ・自己や他者の能力を知り、解決に向け工夫や声かけができていくか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で競技に取り組めたか。 ・積極的に準備や片付けを行い、自分及び仲間の安全に配慮できたか
主な評価方法	・タイム測定 ・実技テスト ・試合の様子	・練習の様子 ・実技テスト ・試合の様子 ・課題への取り組み	・授業へ取り組む姿勢 ・出欠席の状況 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	20 時間	男女共通：体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト 男子：ソフトボール／バレーボール 女子：テニス／バドミントン	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。 【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b) ・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)
2 学期	24 時間	男女共通：水泳 陸上競技 男子：バドミントン／バレーボール サッカー 女子：ソフトボール テニス／バドミントン	
3 学期	20 時間	男女共通：バスケットボール 卓球 体育理論 球技（選択） 男子：サッカー 女子：テニス／バドミントン	

令和 5 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	保健	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ① 健康や安全に興味関心を持ち、適切な意思決定・行動選択ができる。【知識及び技能】
- ② 健康について自分の生活と関連付けて考え、生涯にわたって健康な生活を送るため方法について学ぶことができる。【知識及び技能】
- ③ 健康についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ④ 生涯を通じて明るく豊かで活力ある生活を営むことができるようになるために、授業に主体的に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 生きていくうえで重要な健康や安全についての内容になるので多面的、発展的な授業も展開されることもある。きちんと知識が身につくように学習すること。
- テストについては、授業中の板書や説明を理解しながら教科書主体で学習することが必要となる。
- グループワーク、ペアワークなどに積極的に参加すること。
- 提出物の指示があった場合には、その内容、期限等、担当者の指示に従うこと。
- 欠課時数については特に注意すること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・学習内容を理解し定着させることができたか。 ・新聞、本等で健康に関する社会の情報を得られたか。	・自己に応じた課題を探り、実践に繋げようとしたか。 ・仲間とともに課題解決にむけ、積極的に話し合えたか。	・日常生活における自分及び家族の健康に関心が持てたか。 ・生活習慣の改善等、健康の保持増進に向けて意欲を持てたか。
主な評価方法	・学年末考査 ・グループワークなどの学習活動	・学年末考査 ・グループワークなどの学習活動	・授業態度 ・出欠席の状況 ・課題などの提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	1 0 時間	安全な社会生活 4～6 生涯を通じる健康 1～4	(a) 知識・技能 ・安全な交通社会、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて、それぞれの単元の健康課題について理解することができ、それらの解決方法について考えることができている。また、必要な知識を身につけることができている。 (b) 思考・判断・表現 ・安全な交通社会、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについてそれぞれの単元の健康課題について理解することができ、それらの解決方法についてグループワークやペアワーク、提出物を通し自分の意見を考え、表現することができている。 (c) 主体的に学習に取り組む態度 ・安全な交通社会、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 (グループワーク、ペアワーク、提出物など)
2 学期	1 2 時間	生涯を通じる健康 5～10 健康を支える環境づくり 1～3	
3 学期	1 0 時間	健康を支える環境づくり 4～11	

教 科	芸術				
学 年	2 学年	科 目	音楽Ⅱ	単位数	2
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の諸活動をととして、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。				
教 材	Mousa2（教育芸術社）、愛唱歌集、音楽通論など				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・表現および鑑賞に必要な音楽理論・音楽史を理解できたか。 ・個々の能力に応じた音楽技能を高めることができたか。	・音楽作品の特質をより深く理解し、掘り下げ、それを表現に繋げることができたか。 ・他の生徒の感じ方や考え方を尊重し共有また協働することができたか。		・自ら進んで積極的に課題に取り組むことができたか。 ・自らの課題を設定することができたか。	
主な評価方法	・実技テスト ・楽典小テスト ・授業観察	・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト		・課題提出 ・授業観察 ・授業日誌	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	楽典・ソルフェージュ① 歌唱・簡易な合唱		中間考査	10 時間	
	楽典・ソルフェージュ② ドイツ歌曲・ギターの基礎		期末考査	10 時間	
2 学期	楽典・ソルフェージュ③ 音楽史・鑑賞① 伝統音楽（三線）		中間考査	15 時間	
	楽典・ソルフェージュ④ フランス歌曲 ヴァイオリンの基礎②・弦楽合奏		期末考査	15 時間	
3 学期	鑑賞② 器楽アンサンブル		中間考査	10 時間	
	楽典・ソルフェージュまとめ 発展的な合唱		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
意欲的に取り組むことはもちろんのこと、いろいろな分野において音楽に親しむ柔軟性を大切にする。1年次に学習した内容を発展させ、各分野においてより音楽的にアプローチしていく。実技内容だけでなく、音楽から感じたことを言葉にする力や表現する力、また、音楽文化に幅広く興味関心を持つことができたかなどを総合的に評価する。提出物は必ず出し、持ち物などの忘れ物のないようにすること。					

教 科	芸術				
学 年	2	科 目	美術Ⅱ	単位数	2
担当者	担当 芸術科教諭 藤原 清華				
達成目標	美術の学習を通して造形的な見方・考え方を養うとともに、美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。				
教 材	教科書・スケッチブック・絵画用具用材・各種材料等				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか		美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか	
主な評価方法	・練習課題 ・ワークシート ・小テスト		・作品の出来栄え ・発表、鑑賞		・振り返りシート ・授業態度 ・作品の提出状況
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	【デザイン】文化祭ポスター		中間考査 なし	10 時間	
	【彫刻】木彫り		期末考査 なし	10 時間	
2 学期	【絵画】木炭デッサン		中間考査 なし	15 時間	
	【絵画】油絵		期末考査 なし	15 時間	
3 学期	【彫刻・工芸】張子		中間考査 なし	10 時間	
	【鑑賞】アートゲーム		期末考査 なし	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
アートとは「自分だけのものの見方」で世界を見つめ、「自分なりの答え」を生み出し、それを作品として表現することです。ただ作り方を学ぶのではなく「自分だけのものの見方」を試す練習、そして「自分なりの答え」を「作品」として表現する時間だと考えてください。 制作物については、丁寧に作ったか・工夫されているかを重視します。（工夫とは・・・自分で調べる・人に聞く・何度も試す・面白いアイデアを考えるなど）					

教 科	芸術				
学 年	2 学年	科 目	書道Ⅱ	単位数	2
担当者	書道担当教諭				
達成目標	書の創造的な諸活動を通して、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。書の文化や伝統についての理解を深め、より豊かな生活を目標とする。				
教 材	教科書・プリント・書道用具用材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	教科書に沿った書の古典学習等を通して基礎知識を身につけること。用具・用材の特徴を理解し、古典臨書学習を中心に学習しながら基本的な技能を身につけること。	作品制作を通じ書道理論を学習。古典や現代的表現等、多種多様な選択肢の中から自分らしい書を探してもらうこと。それらを通じて自己表現を確立。	創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。		
主な評価方法	・ 練習課題 ・ ワークシート	・ 作品 ・ ワークシート ・ 発表	・ 自己評価プリント ・ 授業態度		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	漢字の書の学習（楷書・行書・草書） 臨書を中心に	中間考査	10 時間		
	漢字の書（隷書）創作	期末考査	10 時間		
2 学期	漢字の書の学習（篆書）臨書を中心に	中間考査	15 時間		
	篆書を基礎にした文字の刻字	期末考査	15 時間		
3 学期	仮名の書の学習（臨書・創作） 仮名用の印の制作	中間考査	10 時間		
	漢字仮名交じりの書の創作	期末考査	10 時間		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
単元ごとに提示された作品を仕上げ提出する（指定された期限までに必ず提出できること）。作品完成に至るまでの工夫や、技能的な向上、研究する姿勢も含め総合的に評価する。技術習得ばかりでなく、鑑賞力・着眼点・豊かな発想なども大切にする。自発的な準備や片付けの協力、及び用具等の管理は自分で責任持ってきちんとすること。					

令和 5 年度 英語科 シラバス

科目	英語コミュニケーションII	単位数	4	学年（講座）	2 学年（文系）
担当者	学年担当 英語科教諭				
達成目標	一定の支援を活用し、以下の5領域の資質・能力を一体的に育成する。 1. 聞くこと:必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。 2. 読むこと:必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。 3. 話すこと[やり取り]:多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。 4. 話すこと[発表]:多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。 5. 書くこと:多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。				
使用教科書 補助教材	A:「MY WAY English Communication II」(三省堂) 「MY WAY English Communication II 準拠ワークブック」(三省堂) B:「Reading Adventure」(文英堂) 「コーパス3000 4th edition」(東京書籍) 「Listening Essentials 1.5」(啓隆社)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	英語の構造やその運用方法について正確に理解し、一定の語彙を習得し、適切に使いこなすことができるか。また、言語の背景にある人々の暮らしや文化、身の回りで起きている出来事などに関心を持ち、理解しているか。	日常的な話題から社会問題まで幅広いテーマについて、情報や考えなどを的確に理解し、学んだ知識や技能を活用して、場面、目的、状況等に応じて、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しているか。		言語能力を身につけるために意識的、計画的に学習に取り組んでいるか。また、自身の学習状況を把握して、計画の見直し、学習方法を工夫しながら、粘り強く学ぼうとしているか。	
主な 評価方法	◆中間・期末考査 ◆定期考査での初見問題の出題 ◆単語テスト ◆パフォーマンステスト ※生徒による自己評価・相互評価を行う。	◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆パフォーマンステスト ◆Part別確認テスト、中間・期末考査 ※各項目の活動内容により、生徒の相互評価も行う。		◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆ワークブック、ワークシート、定期課題等の提出 ◆パフォーマンステスト ◆定期考査での初見問題の出題 ※各項目の活動内容に応じて、生徒による自己評価・相互評価を行い、その様子を観察する。	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
☐ 心構え：1年生で習慣化した英語の学習リズムを継続しましょう。学習の支えとなるのは、「英語を使えるようになりたい。」という強い気持ちと「英語を楽しもう!」という姿勢です。授業の中で英語で表現する機会が1年次よりも増えます。失敗を恐れず取り組みましょう。					
☐ テスト：各学期ごとの中間・期末考査の他に、単語テスト、パフォーマンステストを実施します。定期考査では、授業の既修事項に加えて「初見問題」も出題します。					
☐ 提出物：[リスニング課題]Listening Essentials Revision book の提出 [長期休業中の課題]発展学習課題(夏・冬・春) [単語テストの前後学習]結果に応じて復習課題の提出					
☐ 持ち物：タブレット、「自己評価シート」を毎回必ず持参してください。 単語テストやレポート提出はロイロノートで行います。					

学期	定期 考查	進行計画（学習の内容）	評価基準	配当 時間
1 学期	中間 考查	A: Lesson 1 Dance Around the World		11
		●テーマは海外のダンス。海外からの友人に紹介する日本の踊りに ついて話す。 [文法]文型の理解	相づちを打つ表現の使い方を理解し ているか。 文構造が理解できているか。	
		B: Lesson 1 ~ Lesson 4, challenge 1		10
	期末 考查	A: Lesson 2 Katsura Sunshine — Making the World Laugh		10
		●英語による落語について理解する。日本文化の魅力について話し 合う。 [文法]形式主語、形式目的語の理解	話題を発展させる表現を使えるか。 形式主語、形式目的語の文構造を理 解しているか。	
2 学期	中間 考查	A: Lesson 3 Living with Nature — Takita Asuka's Journey		9
		●野生動物の保護活動を理解し、絶滅の危機にある動植物の現状 について話し合う。 [文法]完了形の理解	状況や理由などを詳しく伝える技術を 理解しているか。 現在完了、現在完了進行形を理解し ているか。	
		A: Lesson 4 Sesame Street		8
		●セサミストリートに込められたメッセージを理解し、キャラクターにつ いて話し合う。 [文法]知覚動詞、使役動詞の理解	対話を行う際の聞き直す表現を理解 し、使えるか。 SVOCの文型を理解し、使えるか。	
		夏季学習の課題 Reading ① The Little Prince		4
	期末 考查	A: Lesson 5 From Landmines to Herbs		8
		●国際ボランティアについて理解する。カンボジアでの活動を理解 する。 [文法]関係代名詞、関係副詞の理解	自分の考えを提案する表現の意味や 働きを理解しているか。 前置詞+関係代名詞、非制限用法を 理解しているか。	
		B: Lesson 5 ~ Lesson 10, challenge 2, 3		12
		A: Lesson 6 Murals — The Power of Public Art		8
		●世界中の壁画プロジェクトについて理解し、校舎の外壁に描きた い絵を考える。 [文法]助動詞+have+過去分詞の理解	対話で必要な描写する表現の意味や 働きを理解しているか。 助動詞+have+過去分詞、完了不定詞 の文を理解しているか。	
3 学期	(前 半)	A: Lesson 7 “Englishes” in the World		8
		●英語の学習方法について話し合う。世界のさまざまな英語につ いて理解する。 [文法]分詞構文の理解	対話の中で、助言する表現の意味や 働きを理解しているか。 分詞構文の構造や付帯状況を表す表 現を理解しているか。	
	(後 半)	A: Lesson 8 Deepika Kurup — The Science Behind Clean Water		10
		●世界の水問題への取り組みを理解する。世界の科学者、社会企 業家に関心を持つ。 [文法]仮定法の理解	テーマについて詳しく調べ、伝える技 能を身に付けたか。 仮定法の基本と応用を理解して使うこ とができるか。	
		B: Lesson 11 ~ Lesson 13, challenge 4,5		10
		A: Lesson 9 The World's Poorest President		10
		●幸せとは何か考え、話し合う。 [文法]同格、強調構文、倒置、省略等の表現理解	対話の中で相手に共感する表現の役 割を理解し、使えるか。 同格のthat, 強調構文、倒置などの文 構造を理解しているか。	
	(後 半)	A: Lesson 10 Living in an E-Society — The Pros and Cons		10
		●eスポーツ、電子書籍の長所、短所を考える。 [活動]トピックについて賛成、反対の役割を決めて話し合う。	議論の場で、主張する、賛成する、反 対する、理由を述べる、 共感するなどの表現の意味や働きを理 解し、使えるか。	

令和 5 年度 英語科 シラバス

科目	英語コミュニケーションII	単位数	3	学年（講座）	2学年（理系）
担当者	学年担当 英語科教諭				
達成目標	一定の支援を活用し、以下の5領域の資質・能力を一体的に育成する。 1. 聞くこと:必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。 2. 読むこと:必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。 3. 話すこと[やり取り]:多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。 4. 話すこと[発表]:多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。 5. 書くこと:多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。				
使用教科書 補助教材	「MY WAY English Communication II」(三省堂) 「MY WAY English Communication II 準拠ワークブック」(三省堂) 「コーパス3000 4th edition」(東京書籍) 「Listening Essentials 1.5」(啓隆社)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	英語の構造やその運用方法について正確に理解し、一定の語彙を習得し、適切に使いこなすことができるか。また、言語の背景にある人々の暮らしや文化、身の回りで起きている出来事などに関心を持ち、理解しているか。	日常的な話題から社会問題まで幅広いテーマについて、情報や考えなどを的確に理解し、学んだ知識や技能を活用して、場面、目的、状況等に応じて、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しているか。		言語能力を身につけるために意識的、計画的に学習に取り組んでいるか。また、自身の学習状況を把握して、計画の見直し、学習方法を工夫しながら、粘り強く学ぼうとしているか。	
主な評価方法	◆中間・期末考査 ◆定期考査での初見問題の出題 ◆単語テスト ◆パフォーマンステスト ※生徒による自己評価・相互評価を行う。	◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆パフォーマンステスト ◆Part別確認テスト、中間・期末考査 ※各項目の活動内容により、生徒の相互評価も行う。		◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆ワークブック、ワークシート、定期課題等の提出 ◆パフォーマンステスト ◆定期考査での初見問題の出題 ※各項目の活動内容に応じて、生徒による自己評価・相互評価を行い、その様子を観察する。	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
☐ 心構え：1年生で習慣化した英語の学習リズムを継続しましょう。学習の支えとなるのは、「英語を使えるようになりたい。」という強い気持ちと「英語を楽しもう！」という姿勢です。授業の中で英語で表現する機会が1年次よりも増えます。失敗を恐れず取り組みましょう。					
☐ テスト：各学期ごとの中間・期末考査の他に、単語テスト、パフォーマンステストを実施します。定期考査では、授業の既修事項に加えて「初見問題」も出題します。					
☐ 提出物：[各Lessonのまとめ学習]教科書のワークブック、ワークシートの提出 [長期休業中の課題]発展学習課題(夏・冬・春) [単語テストの前後学習]結果に応じて復習課題の提出					
☐ 持ち物：タブレット、「自己評価シート」を毎回必ず持参してください。 単語テストやレポート提出はロイロノートで行います。					

学期	定期 考查	進行計画（学習の内容）	評価基準	配当 時間
1 学期	中間 考查	Lesson 1 Dance Around the World		11
		●テーマは海外のダンス。海外からの友人に紹介する日本の踊りに ついて話す。 [文法]文型の理解	相づちを打つ表現の使い方を理解し ているか。 文構造が理解できているか。	
	期末 考查	Lesson 2 Katsura Sunshine — Making the World Laugh		10
		●英語による落語について理解する。日本文化の魅力について話し 合う。 [文法]形式主語、形式目的語の理解	話題を発展させる表現を使えるか。 形式主語、形式目的語の文構造を理 解しているか。	
2 学期	中間 考查	Lesson 3 Living with Nature — Takita Asuka's Journey		9
		●野生動物の保護活動を理解し、絶滅の危機にある動植物の現状 について話し合う。 [文法]完了形の理解	状況や理由などを詳しく伝える技術を 理解しているか。 現在完了、現在完了進行形を理解し ているか。	
		Lesson 4 Sesame Street		8
		●セサミストリートに込められたメッセージを理解し、キャラクターにつ いて話し合う。 [文法]知覚動詞、使役動詞の理解	対話を行う際の聞き直す表現を理解 し、使えるか。 SVOCの文型を理解し、使えるか。	
	期末 考查	夏季学習の課題	Reading ① The Little Prince	4
		Lesson 5 From Landmines to Herbs		8
		●国際ボランティアについて理解する。カンボジアでの活動を理解 する。 [文法]関係代名詞、関係副詞の理解	自分の考えを提案する表現の意味や 働きを理解しているか。 前置詞＋関係代名詞、非制限用法を 理解しているか。	
		Lesson 6 Murals — The Power of Public Art		8
		●世界中の壁画プロジェクトについて理解し、校舎の外壁に描きた い絵を考える。 [文法]助動詞＋have＋過去分詞の理解	対話で必要な描写する表現の意味や 働きを理解しているか。 助動詞＋have＋過去分詞、完了不定詞 の文を理解しているか。	
3 学期	学年 末考 査	Lesson 7 “Englishes” in the World		8
		●英語の学習方法について話し合う。世界のさまざまな英語につい て理解する。 [文法]分詞構文の理解	対話の中で、助言する表現の意味や 働きを理解しているか。 分詞構文の構造や付帯状況を表す表 現を理解しているか。	
		Lesson 8 Deepika Kurup — The Science Behind Clean Water		10
		●世界の水問題への取り組みを理解する。世界の科学者、社会企 業家に関心を持つ。 [文法]仮定法の理解	テーマについて詳しく調べ、伝える技 能を身に付けたか。 仮定法の基本と応用を理解して使うこ とができるか。	
	学年 末考 査	Lesson 9 The World's Poorest President		10
		●幸せとは何か考え、話し合う。 [文法]同格、強調構文、倒置、省略等の表現理解	対話の中で相手に共感する表現の役 割を理解し、使えるか。 同格のthat、強調構文、倒置などの文 構造を理解しているか。	
	学年 末考 査	Lesson 10 Living in an E-Society — The Pros and Cons		10
		●eスポーツ、電子書籍の長所、短所を考える。 [活動]トピックについて賛成、反対の役割を決めて話し合う。	議論の場で、主張する、賛成する、反 対する、理由を述べる、 共感するなどの表現の意味や働きを理 解し、使えるか。	

令和 5 年度 英語科 シラバス

科目	論理・表現II	単位数	2	学年（講座）	2 学年（クラス）
担当者	学年担当 英語科教諭				
達成目標	一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、 1. 話すこと[やり取り]: 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができる。 2. 話すこと[発表]: 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。 3. 書くこと: 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。				
使用教科書 補助教材	A: 「NEW FAVORITE English Logic and Expression II」(東京書籍) B: 「英作文力を育てるための文法」(宥座の書) C: 「Active Writing Basic Course」(第一学習社) 「EARTHRISE アースライズ総合英語」(数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	英語の構造やその運用方法について正確に理解し、適切に使いこなすことができるか。また、言語の背景にある人々の暮らしや文化、身の回りで起きている出来事などに関心を持ち、理解しながら言語を使おうとしているか。	相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、日常的な話題から社会問題まで幅広いテーマについて、学んだ知識や技能を活用して、場面、目的、状況等に応じて、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しているか。	言語能力を身につけるために意識的、計画的に学習に取り組んでいるか。また、自身の活動を振り返りながら、計画の見直し、学習方法を工夫して、粘り強く学ぼうとしているか。		
主な 評価方法	◆中間・期末考査 ◆英文書き取りテスト ◆パフォーマンステスト ※生徒による自己評価・相互評価も行う。	◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆パフォーマンステスト ◆中間・期末考査 ※生徒による自己評価・相互評価も行う。	◆言語活動の取り組み状況の観察 ◆ワークブック、ワークシートの提出 ◆パフォーマンステスト ◆英文書き取りテスト ◆定期考査での初見問題 ※生徒による自己評価・相互評価も行う。		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
□心構え：1年生で習慣化した英語の学習リズムを継続しましょう。学習の支えとなるのは、「英語を使えるようになりたい。」という強い気持ちと「英語を楽しもう!」という姿勢です。授業の中で英語で表現する機会が1年次よりも増えます。 定期的にALTが参加して授業を行います。失敗を恐れず取り組みましょう。					
□テスト：各学期ごとの中間・期末考査の他に、英文書き取りテスト、パフォーマンステストを実施します。 定期考査では、授業の既修事項に加えて「初見問題」も出題します。					
□提出物：[週末課題]毎週配布するプリント課題の提出 [英文書き取りテストの前後学習]結果に応じて復習課題の提出					
□持ち物：タブレット、「自己評価シート」を毎回必ず持参してください。 英文書き取りテストの提出はロイロノートで行います。					

学期	定期 考査	進行計画（学習の内容）	評価基準	配当 時間
1 学期	中間 考査	A: Unit 1 Lesson 1 友達に報告する	相手に心配や感謝を伝えられるか。	7
		B: Unit 1-2 現在形・現在進行形	時制の基本を理解できているか。	
		C: Lesson 13-14 動詞を名詞のように使う	動名詞、不定詞を理解できか。	
	期末 考査	A: Unit 1 Lesson 2 日本での初登校	繰り返しや言い換えが使えたか。	6
		B: Unit 3-4 過去形・過去進行形	時制の基本を理解できているか。	
		C: Lesson 15-17 名詞を詳しく説明する	名詞を修飾する方法を理解したか。	
		A: Unit 1 Lesson 3 経験についてのスピーチ	相手の注意を惹くことができたか。	7
		B: Unit 5 未来について語る	未来時制を理解できているか。	
		C: Lesson 18-19 比較して表現する	比較表現を理解できているか。	
2 学期	中間 考査	A: Unit 1 Lesson 5 イベントに誘う	説明をし、勧誘ができたか。	6
		B: Unit 6 現在完了形	現在完了形を正しく使えたか。	
		C: Lesson 20-21 仮定法を使った表現	仮定法の表現を理解できているか。	
		A: Unit 1 Lesson 6 図書館で資料さがし	適切に相談や依頼ができたか。	6
		B: Unit 7 助動詞	助動詞を正しく使えたか。	
		C: Lesson 1-3 文型の復習	基本文型が理解できているか。	
	期末 考査	A: Unit 1 Lesson 7 翻訳についてのスピーチ	要約や言い換えを正しく表現できたか。	6
		B: Unit 8 話し手の態度を表す表現	思考、判断、不安などを表現できたか。	
		C: Lesson 4-6 時制の復習	基本時制が理解できているか。	
		A: Unit 1 Lesson 9 タクシーに乗る	適切に依頼や提案をできたか。	6
		B: Unit 9-10 to-不定詞、動名詞を使って語る	動詞を名詞化する表現を理解できたか。	
		C: Lesson 7-8 助動詞の復習	助動詞を適切に使えるか。	
3 学期	（前 半）	A: Unit 1 Lesson 10 友達とディスカッション	ディベートや議論に参加できたか。	7
		B: Unit 11 比較して語る	比較表現を理解し、使えたか。	
		C: Lesson 9-10 受動態、不定詞	受動態、不定詞が理解できているか。	
	（後 半） 学 年 末 考 査	A: Unit 1 Lesson 11 比較結果のプレゼンテーション	比較表現を使って説明できたか。	7
		B: Unit 12 受動態を使って語る	受動態を理解し、使えたか。	
		C: Lesson 11-12 不定詞、知覚動詞、使役動詞	SVOCの文型を理解できているか。	
		A: Unit 1 Lesson 12 就きたい職業	テーマに沿って英文が書けたか。	6
		B: Unit 13 仮定法を使って語る	仮定法の表現を理解し、使えたか。	
		C: Lesson 22-23 主語の立て方を工夫する	英語らしい表現を習得できたか。	

教 科	家庭科				
学 年	2 学年	科 目	生活文化	単位数	2
担当者	学年担当 家庭科教諭				
達成目標	生活上の様々な問題を主体的に解決する能力と基礎的技術を身につける。 暮らしに根付く生活文化について理解を深める。				
教 材	Creative Living「家庭基礎」で生活をつくろう（大修館）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・自立した生活に必要な基礎的知識や生活文化について理解することができる。 ・生活の中で実践するための基礎的技能を身に付けることができる。	実験実習や課題解決学習等において、仲間とコミュニケーションを取り、学習成果について考えをまとめることができる。		生活課題に対して関心を持ち、意欲的に改善・向上策を見つけようと努力している。	
主な評価方法	・定期考査 ・提出プリント・レポート内容による評価 ・作品制作の評価	・定期考査 ・提出プリント、レポート内容による評価 ・グループワークやプレゼンテーション等の場面での観察		・実習やプレゼンテーション等の学習活動の行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	食生活分野 ・食生活を見直す、現代の食生活の課題、日本の食文化（郷土食行事食） 実験実習、食の安全性	中間考査	10 時間		
		期末考査	10 時間		
2 学期	消費生活 ・暮らしと経済、一人暮らしのマネジメント 衣生活 ・衣服の文化、生活技術、衣服製作	中間考査	15 時間		
		期末考査	15 時間		
3 学期	住生活 ・住まいと住環境、住まいの安全、環境と住まい	中間考査	10 時間		
		期末考査	10 時間		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・各学期ごとに定期考査を実施する。 ・提出プリント、レポート、製作物等の期限は厳守すること。 ・調べ学習及びプレゼンテーションを実施する。					

令和 5 年度 情 報 科 シラバス

科 目	情報Ⅰ	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	最新 情報Ⅰ				
補助教材等					

1 学習の到達目標

現在の目まぐるしく移り変わる高度情報化社会の基礎となる知識を身につけ、変化に対応するための技術と知識を身に着ける。情報の正しい伝え方、受け取り方には世界標準となる規則がある。その基礎的な知識を理解し、基本となる技術を身に着ける。高度情報化社会には光と影の部分があり、それらへの適切な対応を身に着ける。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○定期考査の前でよいので、教科書を通読し、太字のキーワードについて用語の理解をし、自分の言葉で簡単に説明できるように調べてください。
 ○本校で導入中のライフイズテックレッスンに参加し、各單元ごとに確認テストを達成してください。
 ○実際に PC 教室の PC にも触れ、基本的な操作、実用的な文字入力の手速、オフィスアプリの基礎的な操作にも慣れてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会での高度情報化社会における課題とその有用性およびその構造的な知識理解	プログラムの考え方とその実験、実践。 情報発信者として基礎的な注意点を知り、グローバルな視点で自己表現できる。	情報の価値への認識を深めるとともにその信ぴょう性の確認とその方法を実践的に学ぼうとしているかどうか。 実用的な入力の手速に対する研鑽を積む
主な評価方法	・毎回の定期考査におけるペーパーテストで実用的な知識の習得を測る。	・長文の文字入力テスト、文書処理、パワーポイント、表計算の各種検定の模擬試験問題を利用して実技テストを行う。	・授業中の取り組む態度 ・作品に対する自己評価や相互評価の様子および記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	第1章 情報社会と 私たち	最新情報Ⅰ	8	1. 情報社会 2. 情報社会の法規と権利 3. 情報社会が築く新しい社会 4. パソコンにおける文字入力と文書処理演習	基礎的な用語の理解、 具体的、実用的な法律用語の習得 基礎的なパソコンのローマ字入力の習得

6	第2章 メディアとデザイン	最新情報 I	8	1. メディアとコミュニケーション 2. 情報デザイン 3. 情報デザインの実践 4. 簡単なWebページの作成演習 5. パワーポイントによるプレゼンの作成演習	情報デザインの基礎、Webページの基本的知識理解、プレゼンテーションの作成とその実践
7 8 9	第3章 システムとデジタル化 第4章 ネットワークとセキュリティ		18	1. 情報システムの構成 2. 情報のデジタル化 3. 情報通信ネットワーク 4. 動画の原理とアニメーションの作成	情報のデジタル化とネットワークについての知識理解 動画の作成とその原理の理解
10 11	第5章 問題解決とその方法		11	1. 問題解決 2. データの活用 3. モデル化 4. シミュレーション 5. エクセルによる表計算の演習	データの活用とその知識理解 表計算ソフトの基本的操作とシミュレーションの実践演習
12 1 2	第6章 アルゴリズムとプログラミング		18	1. プログラミングの方法 2. プログラミングの実践 3. ライフイズテックレッスンによるプログラミングの実践演習	プログラミングの基本的知識理解 プログラミングの実践演習

令和 5 年度 科 シラバス

科 目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	—				
補助教材等	未来を拓く探究シリーズ 探究ナビ（ベネッセ）、本校作成各種プリント				

1 学習の到達目標

- 1、教科横断的な学習を通じて、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解できるようにする。…【知識及び技能】
- 2、地域や国際社会、実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析して思考し、まとめ・表現できるようにする。…【思考力・判断力・表現力等】
- 3、探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域社会を支え、未来を創造しようとする態度を育てる。…【学びに向かう力、人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教材は探究学習のテキスト「探究ナビ」（ベネッセ）を主に使用しますが、適宜、本校作成のプリントや ICT 教材なども使用します。学習する具体的な内容や方法は授業ごとに伝えます。

○内容や進度に応じて、学年全体・クラス・グループ・講座などの単位で活動します。

○自分の興味・関心、地域の課題、自分の進路にかかわることをテーマにして探究学習を進めます。学習の成果を、就職試験や入学試験に活かすことができます。また、自分の生き方や働き方に対する考えを深めることができます。

○調査のために校外に出かけることがあります。地域の人たちと交流することもあります。放課後や長期休業などを利用する時もあります。主体性やコミュニケーション力が求められます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 ・探究の意義や価値を理解している。 ・地域社会の現状と課題に対する理解が深まり、問題意識が高まっている。	自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析し、思考して解決策を探り、まとめ・表現している。	・探究活動に主体的・協働的に取り組んでいる。 ・自分らしい自己の在り方、生き方を考え、自己実現を図ろうとしている。 ・異なる多様な意見や他者の考えを受け入れ、他者を尊重する価値観が身に付いている。 ・地域社会を支え、未来を創造しようとする態度が身に付いている。
主な評価方法	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・学習態度や課題の取り組み状況による評価 ・生徒の自己評価や生徒間での相互評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 ～ 7 月	課題を見つける。問いを立てる。調査方法について学ぶ。	探究ナビ 本校作成教材	12	1学年で学んだ探究の手法を生かし、今年度は地域に基づく課題を見つけ、問いを立て、調査方法についても研究する。最終的には1期中に探究計画書の作成までを行う。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をABCの3段階で評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
8 ～ 11 月	課題についての調査、分析をしながら、似た探究テーマについての仲間を見つけることで、探究内容の充実を図る。	探究ナビ 本校作成教材	9	調査方法が自分の探究テーマに対して妥当なものであるか精査しながら探究活動を進めるとともに、類似の探究テーマを設定している生徒と切磋する機会も設ける。発表の方法についても学び、どのような発表方法であれば自分の探究内容が他者に効果的に伝えることができるかについても講演を通し各自で研究する。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をABCの3段階で評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
12 ～ 2 月	学年ごとの小発表会を通して、改善点を見つけ内容をさらに充実させる。次年度へつなげる、振り返り。	探究ナビ 本校作成教材	14	学級単位もしくは学年での発表会を通し、意見や質問などを出してもらい、それを踏まえさらに充実した探究となるよう、教員やAIチャットボットなどのアドバイスを受けながら内容の補強を図る。次年度につながる探究計画書も最終的に作成する。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をABCの3段階で評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。